

〈特集「ヴォイスとその周辺」〉

## インドネシア語のヴォイスとその周辺 Voice and related matters in Indonesian

佐近 優太  
Yuta Sakon

東京外国語大学大学院総合国際学研究科  
Graduate School of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies

**要旨:** 本稿の目的は、特集「ヴォイスとその周辺」(『語学研究所論集』第17号, 2012, 東京外国語大学)におけるアンケート項目に対するインドネシア語のデータを与えることである。

**Abstract:** This report aims to provide the Indonesian data which answers the thirty survey questions for the special volume of the *Journal of the Institute of Language Research* 17, 2012, which focuses on the cross linguistic study of 'Voice and related matters'.

**キーワード:** インドネシア語, ヴォイス, 使役, 自動詞, 他動詞

**Keywords:** Indonesian, voice, causative, intransitive verb, transitive verb

### 1. はじめに

本稿では、インドネシア語のヴォイスとその周辺に関する事項について記述を行う。今回の記述は『語学研究所論集』第17号(2012)の特集テーマ「ヴォイスとその周辺」のアンケート項目に基づいている。アンケート回答に際しては、執筆者が日本語からインドネシア語<sup>1</sup>に翻訳した後、コンサルタント二名<sup>2</sup>に協力していただき修正を行った。例文については、それぞれの一行目にアンケート原文の日本語を提示する。補足が必要な場合は、アンケート項目外の文も適宜用いている。この項目外の例文も執筆者が作成した後、コンサルタントによるチェックを受けたものである。

### 2. インドネシア語データ

#### 2.1. 自動詞と他動詞

最初に、インドネシア語における自動詞と他動詞による表現をみる。

1-a (風などで)ドアが開いた。【自動詞による表現】

- (1) Pintu itu \*(ter-)buka (oleh angin).  
door that TER-open by wind  
「(風によって)そのドアが開いた」



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

<sup>1</sup> 基本的に書き言葉における標準インドネシア語を用いるが、一部口語体またはインフォーマルな文体も含まれる。そうした場合はその都度明記する。

<sup>2</sup> コンサルタントは Rahmat Sopian 氏と Himawan Pratama 氏である。この場を借りて感謝の意を表す。

1-b (彼が)ドアを開けた。【他動詞による表現】

- (2) Dia mem-buka<sup>3</sup> pintu itu.  
3SG ACT-open door that  
「彼はドアを開けた」

上の例文は、それぞれのアンケート原文に最も合致すると考えられるものである。しかし(1)において、接頭辞 *ter-*は受動態標識の一つとして捉えられる場合があることに注意が必要である。(2)と以下の(3)-(4)からわかるように、インドネシア語には能動態標識として接頭辞 *meN-*<sup>4</sup>、受動態標識として接頭辞 *di-*と接頭辞 *ter-*が存在する(ルシアナワティ 1998: 91)。受動態標識のうち接頭辞 *di-*は無標の形式と捉えられるのに対して、接頭辞 *ter-*は「結果状態」「可能」「非意図」の意味を付与するという点で意味的に有標である<sup>5</sup>。

1-c (入り口の)ドアが開けられた。【他動詞の受け身】

- (3) Pintu masuk itu di-buka.  
door enter that PASS-open  
「その入り口のドアが開けられた」

- (4) Pintu masuk itu ter-buka.  
door enter that TER-open  
「その入り口のドアは開いている/開いてしまった/開けられた」

そのため、(1)の文も能動文「風がドアを開けた」に対応する受動文の一つとしてみなされる。しかし接頭辞 *ter-*は有生の動作主が非意図的に行為を行った場合、または動作主が無生物もしくは動作主が不明である場合に多く用いられる形式である。そのため「(何かによって)ドアが開いた」というような日本語では自動詞で表す事態は、インドネシア語では接頭辞 *ter-*が用いられることがある。

こうした日本語の自動詞とインドネシア語の接頭辞 *ter-*の標示との対応関係は必ずしもすべての動詞に当てはまるものではない。以下の(5)では動詞 *rusak* に接辞による標示を行う必要はなく、接頭辞 *ter-*は生起することができない(6)。

1-d ドアが壊れた。【自動詞と他動詞の対立】

- (5) Pintu itu rusak.  
door that broken  
「そのドアは壊れた」

<sup>3</sup> 接頭辞 *meN-*の *N-*の部分は語幹の冒頭音に応じて *m-*, *n-*, *ng-*, *ny-*, *nge-*,  $\emptyset$ -の形で現れる。これらは語幹にそのまま接続する場合と、冒頭音と置き換わる場合がある。本稿では前者は(i)のように形態素境界を設け、後者は(ii)のように表記する。

(i) mem-bawa      (ii) memukul [meN- + (p)ukul]  
ACT-take              ACT.hit

<sup>4</sup> 接頭辞 *meN-*は文体によって省略される場合がある。

<sup>5</sup> 本稿では、便宜上 *ter-*とグロスを *TER-*で統一する。

- (6) \*Pintu itu te(r)<sup>6</sup>-rusak.  
door that TER-broken  
「(意図した意味)そのドアは壊れた」

(5)に対応した他動詞文は以下ようになる。接尾辞-kan が用いられる場合もあり、その場合(7)は形態的使役文といえる。

- (7) Dia me-rusak(-kan)<sup>7</sup> pintu itu.  
3SG ACT-broken-CAUS door that  
「彼はそのドアを壊した」

以上のように buka「開く」では接頭辞 ter-と接頭辞 meN-が、rusak「壊れる」では無標示と接辞 meN-(+kan)によって日本語における自他の対立が表されている。

なお、buka「開く」に接尾辞-kan が伴う場合は使役の意味は生じず、(8)のように受益の解釈を引き起こす。

- (8) Dia mem-buka-kan pintu itu.  
3SG ACT-open-BEN door that  
「彼はそのドアを開けてあげた」

以上、インドネシア語では自動詞・他動詞の形態的区別が難しく、語によって差異が存在する<sup>8</sup>。

## 2.2. 使役

次にインドネシア語の使役文について考える。(9)は menjadikan「～の状態にさせる」という使役動詞が用いられている例である。なおこの場合、(7)のような形態的使役文を用いることは出来ない(10)<sup>9</sup>。

<sup>6</sup> 接頭辞 ter-は基本的にそのまま語幹に接続するが、語幹の冒頭音が r の場合 te-となる。

<sup>7</sup> 接尾辞-kan には(a)benefactive, (b)instrumental, (c)causative の他に、(d)applicative として働くが付随する機能が曖昧なものや(e)統語的变化を引き起こさず、標示が非義務的な場合がある(Kroeger 2007, Shiohara 2012)。本稿では(d)(e)のようなグロスに-KANと表記する。

<sup>8</sup> さらに、同じ buka「開ける」でも「店が開いている」の場合は接頭辞 ter-がない方が自然である。

(i) Toko itu (\*ter-)buka.  
store that TER-open  
「その店は開いている」

<sup>9</sup> コンサルタントによれば、berdiri は diri「立つ」に自動詞的なプロセスを表す語を作ることのできる ber-(便宜上グロスは BER-とする)という接頭辞が付いた派生語であるため、接辞 meN-+kan を用いた形の許容度が低いという。しかし、派生語であることが必ずしもその他の接辞の付与を妨げるわけではない(e.g. men-[ber-henti]-kan [ACT-[BER-stop]-CAUS]「止まらせる」)。また diri に直接使役接辞を付与した場合は(ii)のように「設立する」という別の意味になる。

(ii) Dia men-diri-kan usaha itu.  
3SG ACT-stand-CAUS company that  
「彼はその会社を設立した」

2 私は(自分の)弟を立たせた。【自動詞の使役】

- (9) Saya men-jadi-kan adik saya berdiri.  
1SG ACT-become-CAUS brother 1SG stand  
「私は弟を立たせた」

- (10) \*Saya mem-berdiri-kan adik saya.  
1SG ACT-stand-CAUS brother 1SG  
「私は弟を立たせた」

ただし自動詞の形態的使役文の可否も語彙の種類に依存し、例えば *mandi* 「シャワーを浴びる」であれば(11)のような文が可能である。

- (11) Saya me-mandi-kan adik saya.  
1SG ACT-shower-CAUS brother 1SG  
「私は弟を風呂に入れた(兄弟にシャワーを浴びさせた)」

他動詞の場合、基本的に接尾辞-*kan* を用いて使役文を作ることは出来ず、(9)同様に使役動詞を用いる。(12)では *buat* 「作る、させる」という動詞が用いられている。他動詞に接尾辞-*kan* が付いた場合は前述の(8)のように受益の意味が通常付与される。ただし以下の(15)で見ると一部他動詞は接尾辞-*kan* によっても使役文を作ることが出来る。

3 【他動詞の使役】<sup>10</sup>

- (12) Saya mem-buat adik saya mem-buka pintu itu.  
1SG ACT-make brother 1SG ACT-make door that  
「私は自分の弟にドアを開けさせた」

次に強制使役と許可使役の違いを見る。インドネシア語では、これらは語彙によって区別される。強制使役(13)は *memaksa/menyuruh* 「強制する/命令する」、許可使役(14)は *mengizinkan/membolehkan* 「許可する」などの語が用いられる、

4-a (遊びたがっている子供に無理やり)母はパンを買いに行かせた【強制使役】

- (13) Se-orang ibu memaksa / menyuruh anak=nya mem-beli roti.  
one-CLF mother ACT.force / ACT.command child=3 ACT-buy bread  
「母は子供にパンを買いに行くことを強制した」

4-b (遊びに行きたがっているのを見て)母は子供を遊びに行かせた【許可使役】

- (14) Se-orang ibu meng-izin-kan / mem-boleh-kan anak=nya bermain di luar.  
one-CLF mother ACT-permit-KAN / ACT-let-KAN child=3 play in outside  
「母は子供が遊びに行くのを許可した」

---

<sup>10</sup> アンケート原文で用いられていた「歌を歌う」はインドネシア語では *bernyanyi* と自動詞であるため、アンケートの趣旨と合致せず、例文を変更した。

ここまでインドネシア語の使役には接尾辞-kan によるものと、使役動詞を用いるものがあることを見た。「着せる」という動詞の場合、これら二つの形式は行為の直接性によって使い分けられる。直接手を下して行為を行っている場合は接尾辞-kan (15)、間接的な命令の場合は使役動詞による使役文が用いられる(16)。

5-a 私は弟に服を着せた【直接の行為】

- (15) Saya memakai-kan adik saya baju baru.  
1SG ACT.use-CAUS brother 1SG clothes new  
「私は弟に新しい服を着せた」

5-b 私は弟にその服を着させた【間接の行為】

- (16) Saya menyuruh adik saya memakai baju itu.  
1SG ACT.command brother 1SG ACT.use clothes that  
「私は弟にその服を着るように命じた」

### 2.3. 授与

「与える」を表す動詞は *beri* であるが、接尾辞-kan の有無によって与格交替が起こる。

6 私は弟にその本をあげた【やりもらい】

- (17) a. Saya mem-beri-kan buku itu kepada adik saya.  
1SG ACT-give-KAN book that to brother 1SG  
「私はその本を弟にあげた」

- b. Saya mem-beri adik saya buku itu.  
1SG ACT-give brother 1SG book that  
「私は弟にその本をあげた」

また前述の通り、接尾辞-kan の機能の一つに恩恵の授与がある。日本語のような授受による形式の違いは存在しない。

7-a 私は弟に本を読んであげた【授恩恵】

- (18) Saya mem-baca-kan buku itu untuk adik saya.  
1SG ACT-read-BEN book that to brother 1SG  
「私は弟に本を読んであげた」

7-b 兄は私に本を読んでもくれた【受恩恵】

- (19) Kakak saya mem-baca-kan buku itu untuk saya.  
brother 1SG ACT-read-BEN book that to 1SG  
「兄は私に本を読んでもくれた」

多くの場合接尾辞-kan による受益表現は、受益者が目的語となる対象物を所有することを含意する(20)。そのため(21)の例では受益者である私が、髪を切った結果としてそれを所有することを想定しにくいた

め、容認度が下がる。

- (20) Ibu saya memotong-kan kue untuk saya.  
mother 1SG ACT.cut-BEN cake to 1SG  
「母は私にケーキを切ってくれた(母はケーキを切って、私にくれた)」

7-c 私は母に髪を切ってもらった【デモラウ】

- (21) ?Ibu saya memotong-kan rambut saya.  
mother 1SG ACT.cut-BEN hair 1SG  
「母は私の髪を切ってくれた」

#### 2.4. 再帰など

一人称の場合は(22)-(23)のように、代名詞または再帰代名詞 *diri* を用いて主語を参照することが出来るが、三人称の場合は再帰代名詞の容認度が低くなる(24)。

8-a 私は自分の体を洗った【再帰】

- (22) Saya men-cuci tubuh {saya / diri}.  
1SG ACT-wash body 1SG/self  
「私は自分の体を洗った」

8-b 私は手を洗った【再帰】

- (23) Saya men-cuci tangan {saya / diri}.  
1SG ACT-wash hand 1SG/self  
「私は手を洗った」

8-c 彼は手を洗った【再帰】

- (24) Dia mem-cuci {tangan=nya / ?tangan diri}.  
3SG ACT-wash hand=3 / hand self  
「彼は手を洗った」

自利態は(25)のように *diri sendiri* など再帰代名詞を用いて表す。

9 (自分のために)私はその本を買った【自利態】

- (25) Saya mem-beli buku itu untuk diri sendiri.  
1SG ACT-buy book that to self own  
「私は自分のためにその本を買った」

#### 2.5. その他

相互に行う行為を表す際には、副詞 *saling* (26a)か、動詞の重複(26b)が用いられる。ただし(27)で示すように、副詞 *saling* と重複を併用することは出来ない。

10 彼らは (／その人たちは) (互いに) 殴り合っていた 【相互】

(26) a. Mereka saling memukul.

3PL each.other ACT.hit

「彼らは互いに殴り合った」

b. Mereka pukul-memukul.

3PL hit-ACT.hit

「彼らは互いに殴り合った」

(27) \*Mereka saling pukul-memukul.

3PL each.other hit-ACT.hit

「彼らは互いに殴り合った」

「共に～する」という事象は副詞 *bersama-sama* を用いて表す。

11 その人たちは (みんな一緒に) 街へ行った 【衆動】

(28) Mereka pergi bersama-sama ke kota.

3PL go together to town

「彼らは一緒に街へ行った」

「その映画は泣ける」といった自発を表す専用の形式は無く、以下の(29)-(30)が対応する表現となる。

12 その映画は泣ける (その映画を見ると泣いてしまう) 【自発】

(29) Film itu akan mem-buat saya menangis.

film that will ACT-make 1SG cry

「その映画は私を泣かせるだろう」

(30) Saya akan menangis kalau menonton film itu.

1SG will cry if ACT.see film that

「その映画を見ると、私は泣いてしまうだろう」

行為の意志性について、(31)のような接頭辞 *meN-*を用いた能動文は通常意図的な行為を表す。行為の無意志性の標示には、動詞に接頭辞 *ter-*を付加する文法的な方法と、副詞 *tidak sengaja* を用いる語彙的な方法がある。ただし接頭辞 *ter-*を用いる場合、(32)のように主語は被動作主でなければならない。そのため、(33)のように「私」を主語位置に置くと、不自然な意味になる。一方で副詞 *tidak sengaja* を用いる場合には能動文にそのまま付加する形となる(34)。

13-a 私は卵を割った 【意志／無意志】

(31) Saya memecah-kan telur.

1SG ACT.break-CAUS egg

「私は卵を割った」

13-b (うっかり落として) 私はコップを割った／割ってしまった【意志／無意志】

(32) Cangkir itu ter-pecah-kan oleh saya.  
glass that TER-break-CAUS by 1SG  
「私はコップを割ってしまった」

(33) ?Saya ter-pecah-kan cangkir itu.  
1SG TER-break-CAUS glass that  
「?私はコップに割られてしまった」

(34) Saya tidak sengaja memecah-kan cangkir itu.  
1SG NEG deliberately ACT.break-CAUS glass that  
「私は意図せずコップを割ってしまった」

不可能の随意性に関して、不随意の不可能を表す場合、助動詞 *bisa* が用いられる(35a)。可能の標識には *bisa* の他に *mampu/dapat* があるが、これらは能力可能を表すためにこの場合文意とあわない(35b)。

14-a きのう私はコーヒーを飲みすぎて (飲みすぎたので) 眠れなかった【不随意の不可能】

(35) a. Kemarin saya terlalu banyak minum kopi, jadi tidak bisa tidur.  
yesterday 1SG too many drink coffee then NEG can sleep  
「昨日私はコーヒーを飲んだので、眠れなかった」

b. Kemarin saya terlalu banyak minum kopi, jadi tidak {?dapat / \*mampu} tidur.  
yesterday 1SG too many drink coffee then NEG can / can sleep  
「昨日私はコーヒーを飲んだので、眠れなかった」

対して、基本的に随意の不可能の場合には可能の標識は現れない(36a)。(36b)のように助動詞 *bisa* を用いると、「仕事がたくさんあって眠る時間がない」といった随意の解釈ではなく、「仕事が溜まっていることに対して不安感を感じ、そのために眠ることが出来ない」という不随意の解釈となる。

14-b きのう私は仕事がたくさんあって (たくさんあったので) 眠れなかった【随意の不可能】

(36) a. Kemarin saya banyak pekerjaan, jadi tidak tidur.  
yesterday 1SG many work then NEG sleep  
「昨日私は仕事がたくさんあって、(遅くまで仕事をする必要があつて)眠れなかった」

b. Kemarin saya banyak pekerjaan, jadi tidak bisa tidur.  
yesterday 1SG many work then NEG can sleep  
「昨日私は仕事がたくさんあって、(不安で)眠れなかった」

日本語などにおけるいわゆる二重主語構文に関して、インドネシア語でも同様な形式が見られる(37)。ただし、「私は頭が痛い」では対比的文脈が想定される(38)。



- (37) Saya asal=nya dari Tokyo.  
1SG origin=DET from Tokyo  
「私は出身地が東京です」

15 私は頭が痛い【全体と部分・主体・一時的】

- (38) Saya kepala=nya sakit.  
1SG head=DET sick  
(複数人いる中で、「あなたはどこが痛いの？」と聞かれて)「私は頭が痛い」

通常「私は頭が痛い」という言う場合には、「私の頭」を主語に置くか(39)、sakit kepala「頭痛」という句を用いる(40)。

- (39) Kepala saya sakit.  
head 1SG sick  
「私は頭が痛い (lit. 私の頭は痛い)」

- (40) Saya sakit kepala.  
1SG sick head  
「私は頭が痛い (lit. 私は頭痛です)」

「彼女は髪が長い」のような場合は、二重主語構文(41)及び、被所有物を主語に置く型(42)を用いることが出来る。

16 彼女は髪が長い【全体と部分・主体・恒常的】

- (41) Dia rambut=nya panjang.  
3SG hair=DET long  
「彼女は髪が長い」

- (42) Rambut=nya panjang.  
hair=3 long  
「彼女の髪は長い」

また、このような所有関係がある場合には接辞 ber-を用いることも可能である<sup>11</sup>。

- (43) Dia be(r)-rambut<sup>12</sup> panjang.  
3SG BER-hair long  
「彼女は長い髪を持っている」

他人の身体部位に働きかけを表現する場合には、「彼の肩」など身体部位を被動作主項にとる。

<sup>11</sup> 接頭辞 ber-とその他の所有表現との使い分けについては、Moeljadi (2011)及び降幡(2013)が詳しい。

<sup>12</sup> 接頭辞 ber-は接頭辞 ter-と同じように、語幹の冒頭音が r の場合 be-となる。

17-a 彼は（別の）彼の肩をたたいた【全体と部分・対象・接触／結果状態が継続的】

- (44) Budi menepuk bahu Agus.  
Budi ACT.pat shoulder Agus  
「Budi は Agus の肩を叩いた」

17-b 彼は（別の）彼の腕をつかんだ【全体と部分・対象・接触／結果状態が継続的】

- (45) Budi memegang lengan Agus.  
Budi ACT.catch arm Agus  
「Budi は Agus の腕をつかんだ」

知覚構文は以下のような形式をとる。

18-a 私は彼がやって来るのを見た【知覚構文】

- (46) Saya me-lihat dia datang.  
1SG ACT-see 3SG come  
「私は彼がやって来るのを見た」

18-b 私は彼が今日来ることを知っている【知覚構文】

- (47) Saya menge-tahu-i (bahwa) dia akan datang hari ini.  
1SG ACT-know-APPL CONJ 3SG will come day this  
「私は彼が今日来ることを知っている」

引用文中での再帰には *dirinya* という再帰代名詞を用いる。

19 彼は自分（のほう）が勝つと思った【引用文中の再帰】

- (48) Dia kira dirinya akan menang.  
3SG think REFL will win  
「彼は自分が勝つと思った」

動作が部分的か全体的かを示す、文法的な要素は存在しない。一部の場合は *sedikit* 「少し」、全部の場合は *semua* 「すべて」という語を用いる。

20-a 私は（コップの）水（の一部）を飲んだ【部分的に及ぶ動作】

- (49) Saya minum air sedikit.  
1SG drink water a.little  
「私は水の一部を飲んだ」

20-b 私は（コップの）水を全部飲んだ【全体に及ぶ動作】

- (50) Saya minum air semua=nya  
1SG drink water all=3  
「私は水を全部飲んだ」

恒常的な否定文を表す特別な形式は存在しない。

21 彼は肉を食べない【恒常的な否定文】

- (51) Dia tidak makan daging.  
3SG NEG eat meat  
「彼は肉を食べない」

感覚に関する表現は以下ようになる。hari ini「今日」を主語にする場合は dingin「寒い」を述語とする(52)。感覚主体を主語に置く場合は、merasa「感じる」という動詞を用いるか(53)、dinginに被害受身の機能を持つ接周辞 ke-an<sup>13</sup>を適用した kedinginan「寒さにやられる」を用いる(54)。

22-a 今日は寒い【感覚述語・非人称文／感覚主体の存在が感じられない、より客観的な表現】

- (52) Hari ini dingin.  
day this cold  
「今日は寒い」

22-b 私は(何だか)寒い(私には寒く感じる)【感覚述語・非人称文／斜格主語】

- (53) Saya me-rasa dingin.  
1SG ACT-feel cold  
「私は寒さを感じる」

- (54) Saya ke-dingin-an.  
1SG KE-cold-AN  
「私は寒さにやられている」

(55)のように接頭辞 ter-を伴った terasa「感じられる」という語を用いることもできる。ただしこの場合の文字通りの意味は「今日は(私には)寒く感じられる」となる。

- (55) Hari ini te-rasa dingin.  
day this TER-feel cold  
「今日は寒く感じられる」

次の例は感情主体が受動的である感情述語文である。「驚く」を表す動詞には terkejut と kaget がある。前者は必ず接頭辞 ter-と共に現れるのに対し(56a)、後者は基本的に無接辞で生起する(56b)。

23 人がとても多かったことに私は驚いた【(感情主体が受動的である)感情述語】

- (56) a. Saya {ter-kejut / \*kejut} (karena) ada banyak orang.  
1SG TER-surprise / surprise because exist many people  
「人がたくさんいたために、私は驚いた」

<sup>13</sup> 接周辞 ke-an は被害受身の他、自発的用法や名詞化の機能を持つため、便宜上グロスに KE-AN とする。

- b. Saya {?ter-kaget / kaget} (karena) ada banyak orang.  
1SG TER-surprise / surprise because exist many people  
「人がたくさんいたために、私は驚いた」

「雨が降り始めた」は mulai 「始める」を用いて以下のように表す。

24 雨が降り始めた【現象文・現場での直接体験】

- (57) Hujan mulai turun.  
rain start fall  
「雨が降り始めた」

中間構文について、「よく売れる」のような表現は、インドネシア語では laris という語を用いる。

25 この本はよく売れる【中間構文】

- (58) Buku itu laris.  
book that sell.well  
「この本はよく売れる」

略号一覧

1: first person, 2: second person, 3: third person, ACT: active voice, APPL: applicative, BEN: benefactive, CAUS: causative, CLF: classifier, CONJ: conjunction, DET: determiner, NEG: negation, PASS: passive voice, PL: plural, POSS: possessive, REFL: reflexive, SG: singular

参考文献

- Kroeger, Paul R. (2007). “Morphosyntactic vs. morphosemantic functions of Indonesian -kan.” In *Architectures, rules, and preferences: Variations on themes of Joan Bresnan*, Annie Zaenen, Jane Simpson, Tracy Holloway King, Jane Grimshaw, Joan Maling, and Chris Manning (eds.), Stanford: CSLI Publications, pp.229–251.
- Moeljadi, David. Possessive Verbal Predicate Constructions in Indonesian. *Tokyo University Linguistic Paper*, 31, pp.117-133
- Shiohara, A. 2012. “Applicatives in Standard Indonesian.” *Senri ethnological studies*, 77, pp.59-76.
- Sneddon, J. N. 2006 *Colloquial Jakartan Indonesian*. Canberra: Australia Pacific Linguistics, Research School of Pacific and Asian Studies, The Australian National University.
- Sneddon, J. N., Adelaar, K. A., Djenar, D. N. & Ewing, M. 2010. *Indonesian: A Comprehensive Grammar. 2nd edition*, London: Routledge.
- 降幡正志. 2013. 「インドネシア語の所有・存在表現」『語学研究所論集』18, 東京外国語大学, pp. 308-331
- ルシアナワティ. 1998. 「インドネシア語における種々の受身構文について -日本語とインドネシア語の対照研究-」『STUDIUM 25』, 大阪外国語大学大学院院生協議会, pp91-109.

執筆者連絡先 : sakon.yuta.n0@tufs.ac.jp

原稿受理 : 2020年12月15日